



Republic of
Ghana
09

ガーナから見えてくるもの ～自然や人々の生活と国際協力～

森 泰三

岡山県立岡山一宮高等学校

●実践教科等/地理歴史(地理B)
●時間数/4時間

●対象学年/高校3年生
●対象人数/135名

ココが
素晴らしい!

地理の授業の中に、無理なく位置しており、統計や写真、地図を活用した流れがわかりやすい。南北を比較したデジタルコンテンツも素晴らしい。

❖カリキュラム

- 【実践の目的】
- ガーナの地域性を多面的・多角的に考察し、現代世界を構成する一つの地域として多様な特色を持っていることを理解させる。さらに他地域との共通性や特殊性を考察させる。
 - ガーナの産業、人々の生活などから見えてくる現代社会の諸課題を考察し、それらの解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考察させる。
 - ガーナと日本との格差、ガーナ国内での格差をとおして、発展途上国の抱える問題を分析し、その問題が発生するメカニズムを理解させる。
 - 青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの具体的な活動や隊員のインタビューから国際協力のあり方や自分にできることを考えさせる。

❖授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	ガーナの位置と自然 アフリカの多様性、ガーナの位置や自然環境について理解させる	すでに学習した内容の復習として、アフリカの地体構造、気候区分などの自然環境と位置やこれから学習する内容の民族などについて確認する	・地図帳 ・地理図表 ・写真
2	日本とガーナ 日本とガーナの統計を比較することでガーナの実態を考えさせる また、2国間のつながりを確認させる	人口規模や経済状態を日本と比較することにより、理解するだけでなく、合計特殊出生率が高いこと、平均寿命が低いことを原因と現象、およびそのメカニズムを理解する	・パワーポイント ・統計書(データブックオブザワールド) ・外務省ホームページ ・2000年国勢調査
3	ガーナの人々、産業、格差 人々の生活や産業の様子からガーナの抱える課題を見だし、解決策を考えさせる	・部族による言語の違い、キリスト教とイスラム教、アクラなどの都市部と地方の格差、産業基盤の弱さなどガーナの抱える課題を見だし、解決策を考える ・授業を進める中で、日本にも地域間格差があること、かつての日本も発展途上の段階があったことなども理解する	・ガーナのチョコレート ・地図 ・写真 ・ガーナの衣服、装飾品
4	JICAの活動 日本が行っている国際協力の実態を知らせ、国際協力の課題や自分達のできることを考えさせる	国際協力、JICA、青年海外協力隊などがどのようなものかを知り、個々の協力隊員のインタビュービデオからそれぞれの思いや考え方、実情を理解した上で、国際協力の課題を見だし、解決に向けた方策を考える	・パワーポイント(ビデオ・写真) →デジタルコンテンツ ・地理図表

❖授業の詳細

1時限目 ガーナの位置と自然

図1は生徒が日頃使用している地図帳のアフリカ大陸の部分である。一般に、受験用の地理学習としては、アフリカ全体については次のようなことを学習する。北部のアトラス山脈が新期造山帯、南部のドラケンスバーグ山脈が古期造山帯、それ以外は安定陸塊で高原になっていること、気候は熱帯雨林、サバナ気候、砂漠気候、ステップ気候、その他の温帯気候など多様である。

人種はサハラ砂漠を境界としてホワイトアフリカとブラックアフリカに分かれ、民族は多様である。さらにヨーロッパの列強の支配の関係で人為的国境が目立つ。

また、ガーナについては次のような内容を学習する。北部がサバナ気候(写真1)で、乾季にはサハラ砂漠からのハルマッタンという砂混じりの季節風が吹く。南部は熱帯雨林である。ヴォルタ川にアコソボダムを建設し、発電を行いアルミニウムを生産している。焼畑農業(写真2)によるキャッサバなどの栽培とプランター

ション農業によるカカオの生産と輸出が盛んである。これらのことを既習範囲に関しては復習ということで、写真や地図を見ながら確認した。



図1 生徒の使用している地図帳「新詳高等地図 最新版」(帝国書院)



写真1 雨季のサバナ気候
北部ボルガタンガ州の熱帯草原



写真2 焼畑農業のようす

2時 日本とガーナ

日本とガーナの統計(表1)について、単純に日本とガーナの統計数値を比較するだけでなく、合計特殊出生率が高いのは、自給自足的な生活がベースとなっていくことも多く、家族内での労働力の必要性があることを考える。平均寿命が低いのは、図2のマラリアなどの風土病の影響もあり、乳幼児の死亡率が高いことが大きな要因であることを理解する。このように、原因と現象およびそのメカニズムを考えさせるように指導した。

また、ガーナの対日輸出・対日輸入、日本にいる国籍別外国人、日本にいるガーナ人、日本にいるガーナ人の人口構成、ODAの内容も同様に統計資料をもとに考察させた。

	日本	ガーナ
人口 2005年	1億2,809万人	2,211万人
合計特殊出生率 2004年	1.3人	4.2人
1人あたり国民総所得 2004年	37,050ドル	380ドル
面積	38.7km ²	23.9km ²
平均寿命 2000年~2005年	81.9歳	56.7歳

表1 日本とガーナの統計

2007データブックオブザワールド

2007 p.147,148

6 アフリカの風土病

○住血吸虫病を引き起こすマキガイ
マキガイのウツシ類を中絶させるとし、野鳥の糞尿を介して、水質により伝染。

○ツェツェ蟻

○ハマダラ蚊

マラリア原虫の寄生した蚊の唾液が血液へ

ヨーロッパ人の導入を助けた風土病にはウイルス性のものと原虫・寄生虫性のものがあり、遊牧や貿易、経済活動などによって広がった。高熱の出るマラリアはハマダラ蚊に、ウイルス性の黄熱病はシマ蚊に、致死性のねむり病は、トリパノソーマ原虫の寄生した吸血性のツェツェ蟻に刺されて伝染する。

図2 アフリカの風土病「地理図表」(第一学習社)

3時 限目 ガーナの人々、産業、格差

授業の導入部分で、ガーナの衣服(写真3)について実際に身につけて、気候条件などを関連を持たせながら説明した。

テーマにあるキングズバイトチョコレート(写真4)の工場での説明の中に「カカオ豆のパウダーではなく、ピターで買ってもらいたい。」ということばがあった。つまり、原料の輸出ではなく付加価値のついた製品を輸出して外貨を稼ぎたいということである。このことに、発展途上国が工業化して経済発展していくということが集約されている。また、現在経済成長している多くの国が、この段階を経ている。このようなことを考えさせた。さらに、「ガーナは先進国になれるのか?」「それはなぜか?」ということをとおして、ガーナが抱えている課題を分析させた。

また、ホームビジット先で見たガーナ料理であるフーフー(写真5)の作り方や食材の写真を見ながら食生活の紹介をしたり、ガーナの学校のグラウンドで多くで見られるネットのないサッカーゴールの写真(写真6)からスポーツ文化の状況を考えさせたりした。

田中 紀子
報告書①

古野 匠子
報告書②

村木 香司
報告書③

重森 美由姫
報告書④

黒明 整一郎
報告書⑤

山崎 知代子
報告書⑥

祝迫 直子
報告書⑦

河毛 樹
報告書⑧

森 三
報告書⑨

安部 一夫
報告書⑩

参考資料

その他に、首都アクラ(写真7)とタマレ郊外の集落(写真8)の写真の比較からガーナ国内の地域間格差について考えさせた。その際、このことが日本をはじめとする国々も内容に違いはあれ、同じように抱えている問題であるという共通性も理解させた。



写真3 ガーナの衣服と授業風景



写真4 キングズバイトチョコレート



写真5 ガーナ料理のフーフー



写真6 学校のグラウンドで見られるサッカーゴール



写真7 首都アクラの風景



写真8 タマレ郊外の集落

4 時 限 目 JICAの活動

生徒の思考の多様性を考えて、一方的な説明をするのではなく、国際協力に関するデジタルコンテンツ(写真9)を作成し、それを活用する授業を実践した。デジタルコンテンツの内容としては、「JICAとは」といった説明や個々の青年海外協力隊やシニア海外ボランティアのビデオ映像などを含んでいる。生徒がそれぞれ、自分でコンピュータを操作し、学習を進めて興味のある分野を見ていくといったシステムである。(写真10)この学習活動をとおして、国際協力の課題を見だし、解決に向けた方策を考えさせた。



写真9 国際協力に関するデジタルコンテンツ



写真10 デジタルコンテンツを活用した授業風景

図3 デジタルコンテンツの構成

「JICAとは」 説明文を各自で読む	画面をクリックして次へ
「青年海外協力隊とは」 説明文を各自で読む	画面をクリックして次へ
「シニア海外ボランティアとは」 説明文を各自で読む	画面をクリックして次へ
「協力隊の人々から何がみえてくるかな？」 各分野の写真、説明 → 興味のある部分をクリックして各分野のインタビュービデオへ進む	
各分野のインタビュービデオ 隊員への応募 ○任務の内容 ○実務していること ○日本との違い 日本と同じこと ○日本に帰国した時 ○日本の子供達へのメッセージ など	
レポート作成 ○協力隊の人々から何がみえたか ○自分ができる国際協力	
最終 「ガーナにおける」JICAの活動	画面をクリックして次へ

デジタルコンテンツの構成

◆成果と課題

- ・中南アフリカ(ブラックアフリカ)を訪問するのは初めてで、新たな地域の教材を得ることができた。現地で収集したモノ、写真、アンケートなど大量の教材となった。
- ・ガーナの抱えている課題は、他の発展途上国と比較して、共通性のあるものと特殊性があるものがあり、それらを地理Bの授業の中で他地域の学習の中にも、具体的な教材として盛り込むことができた。
- ・ガーナのチョコレート、衣服、写真、地図など味覚や視覚に訴える教材が多数あることや、私自身がガーナをテーマとした国際理解教育の教材研究を深く進めることができたことにより、生徒が興味関心を示しただけでなく、国際理解に向けて自ら考え、問題解決をしようとする態度が多数見られた。
- ・研修の地域がガーナの南部から北部まで広い範囲にわたっており、ガーナ国内での地域的な違いなどがわかり、ガーナを多面的に見ることができ、それを授業の中に盛り込むことができた。
- ・事前事後の研修会で勉強したフォトランゲージやランキングなど国際理解教育の指導方法を授業の中に少し取り入れることができたが、授業の対象が高校3年生ということ、時間的な制約があるということなどから、教材があり指導方法も学んだにもかかわらず十分な実践ができたとはいえない。学校現場では、年度当初にシラバス、年間指導計画が決定しており、国際理解教育の内容を取り入れていくことに難しい面もあった。
- ・今回の研修の成果を、2007年12月1日(土)に「JICAの活動と国際理解教育」というテーマで岡山一宮高校の保護者向け講座を企画し、発表することができた。参加者が7名程度で少なかったものの、「大変わかりやすく、発展

途上国の実態がわかった。」「少人数で実施するのはもったいない。」などの評価を得た。この実施に当たっては、国際理解教育出前講座として倉敷市立老松小学校の木下史子先生の「ニジュールの生活と社会問題」の講演と2本立てで行った。木下先生のニジュールにおける2年間の青年海外協力隊OGとしての現地の人々と生活をともにした内容と比較して、2週間の研修では、特に生活に関する深い部分まで見るできていないことを実感した。

- ・2008年2月には、研修の内容を岡山県高等学校教育研究会地理歴史部会地理分科会において地理の教員に写真を中心に報告をする予定である。
- ・ガーナ大学のブックストアで購入した書籍、写真、ビデオ、アンケートなど、大量の教材があり、それらの分析ができておらず、教材化が進んでいない。

参考資料

[参考資料・教材]

- ・二宮書店「2007データブックオブザワールド」二宮書店 2007年
- ・第一学習社編集部「最新地理図表」第一学習社 2006年
- ・帝国書院編集部「新詳高等地図最新版」帝国書院 2006年
- [参考ホームページ]
- ・外務省ODA
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index.html>
- ・在日ガーナ大使館
<http://www.ghanaembassy.or.jp/japan/index.html>
- ・農林水産省、ガーナの農業
http://www.maff.go.jp/kaigai/gaikyo/z_ghana.htm
- ・日本チョコレート・ココア協会
<http://www.chocolate-cocoa.com/statistics/index.html>
- ・総務省統計局、国勢調査
<http://www.stat.go.jp/>



田中 紀子
報告書①

古川 匠子
報告書②

村木 啓司
報告書③

重森 美由姫
報告書④

黒明 翠一郎
報告書⑤

山崎 知代子
報告書⑥

祝追 直子
報告書⑦

河毛 樹
報告書⑧

森 三
報告書⑨

安部 一実
報告書⑩

参考資料